

【今回の兼題】
けんだい

- ① 梅雨（の月・雷・夕焼・曇り）
② 枇杷の実



えり

室戸枇杷沖に椰子の実流るかも
釣糸を垂れてとけこむ梅雨曇り
色紙の金色おさえ金魚折る

富子

亡き夫の愛用シャツに手をふれて
夕空に長年の恋溶かしおり
したた
滴るや枇杷の生気に吾もまた

郁子（岡）

梅雨晴間終活準備気合だけ
やまももや届かぬ所色づきて
温暖化今では鯖も高級魚

紀美

少年の並んでスマホいじる梅雨
キッチンに立つ気も失せる梅雨深し
梅雨ながら街にくり出す老二人

迪子

買った物忘れて又買う破れ傘
やぶ
古都の梅雨趣つゆおもむきやんわり沈ませる
○月明り路地裏照らす嘘までも

綾子

○梅雨晴間園児園庭へ転げ出る
○新緑の列島太古の風が吹く
○万緑やひよこ組の子仁王立ち

千草

傍らにシヨパン終日梅雨籠り
枇杷熟る日毎夜毎の海の色
田水張る夜つびて夜通し星湛え

文子

梅雨曇元上司作本届く
○マニキュアの娘上手に枇杷する
新ジャガのデストロイヤー実げにうまし

農子

梅雨最中雨傘予報ばかりなり
金色の枇杷山盛りに頂きぬ
○山梔子の幾つもの花庭の朝

初江

○鏡川跨ぐ長虹梅雨夕焼
黒塀の続く横町梅雨の月
○枇杷の実を落とし古里後にする

ゆの

枇杷の種ころころと何処へ行く
○梅雨晴れ間少年ボール蹴りたがる
○バスを待つ紫陽花色のおばあさん

瑞枝

○頬杖の夜行バスより梅雨の月
○座布団の梅雨湿りして古書店主
○梅雨に聴くシヨパンの曲はポロネーズ



郁子（土）

○びわの実のうぶ毛濡らしぬこぬか雨
深山草添えてありけり夏料理
つゆ寒や悩める朝の服選えらび

山下 正雄 作品

梅雨深し少女の弓弦張りつめて
枇杷すすり山賊の目の少年期
枇杷の実さんぞくは涙の形十五歳



★次回市民句会

【開催日時】

令和八年七月二十二日（水）

午後一時十五分～午後四時（予定）

【場所】

オーテピア4階 研修室

【兼題】
けんだい

① かき氷 ② 風鈴

（他の題材でも構いません）

【初めての方へ】

市民句会は、俳句愛好者の集いです。
どなたでも自由にご参加いただけます。
事前申込や参加費は不要です。